

韓国環境部プレスリリース 2020年2月17日付

京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 218-227 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1321505&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゴン）百鶴面（ペツカンミョン）および坡州市（パジュシ）長湍面（チャンダンミョン）、江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゴン）華川邑（ファチョンウプ）および上西面（サンソミョン）で発見された野生いのしし死体 10 個体で ASF ウイルスが検出されたと 2 月 17 日明らかにした。

□国立環境科学院は 2 月 17 日野生いのししで ASF ウイルスを確診と結果を関係機関に通知した。これで漣川郡（ヨンチョンゴン）67 件、坡州市（パジュシ）60 件、華川郡（ファチョンゴン）では 78 件の野生いのしし ASF が確診よく全国的には 227 件になった。

○ASF 標準行動指針により試料採取後、現場消毒と共に野生いのししの死体を処理した。

□国立環境科学院は、今回陽性となった死体の発見地点は、既存の感染個体発見地点から 100～600m 近隣であり、全て広域フェンス内で発見され、この地域では感染死体がさらに発見される可能性が高く、徹底的に捜索していると明らかにした。

以上